

第1学年 学級活動指導案

日 時 平成28年8月30日(火) 5校時

対 象 男子5名 女子5名 計10名

指導者 藤田 和宏

学級活動 内容(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」(カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成)

関連 「いわての復興教育」②「身を守り、生き抜くための技能」

ア 地域で起こりやすい災害や過去の災害について理解し、安全な行動をとるための判断に活かすことができる。

【題 材】津波から逃げるために

【ねらい】

自分や他の生命を尊重し、日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解し、安全に行動できる能力や態度を育成する。

【防災教育の視点】

本学級の児童は、東日本大震災時1才～2才であった。震災時の記憶は、遠くの地域や町などへ避難したことを覚えている程度である。津波とはどのようなものであるかを実感を伴って知っている児童はいない。

指導では、津波の実態、津波の威力を知ることにより、ビデオを通して自分の身を守るにはどうすればよいか考えさせることを通して、非常時に生き抜くためにどうすればよいかを考える。

【資料】

- ・写真「東日本大震災記録復興への足跡」(岩泉町)
- ・津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(気象庁)
- ・「いきる かかわる そなえる」P38～39「防潮堤をみて学ぶ」

【具体の指導と児童の姿】

第1時 津波に関するアンケート

第2時 つなみからにげるために(本時)津波の際の適切な避難の仕方を知る。

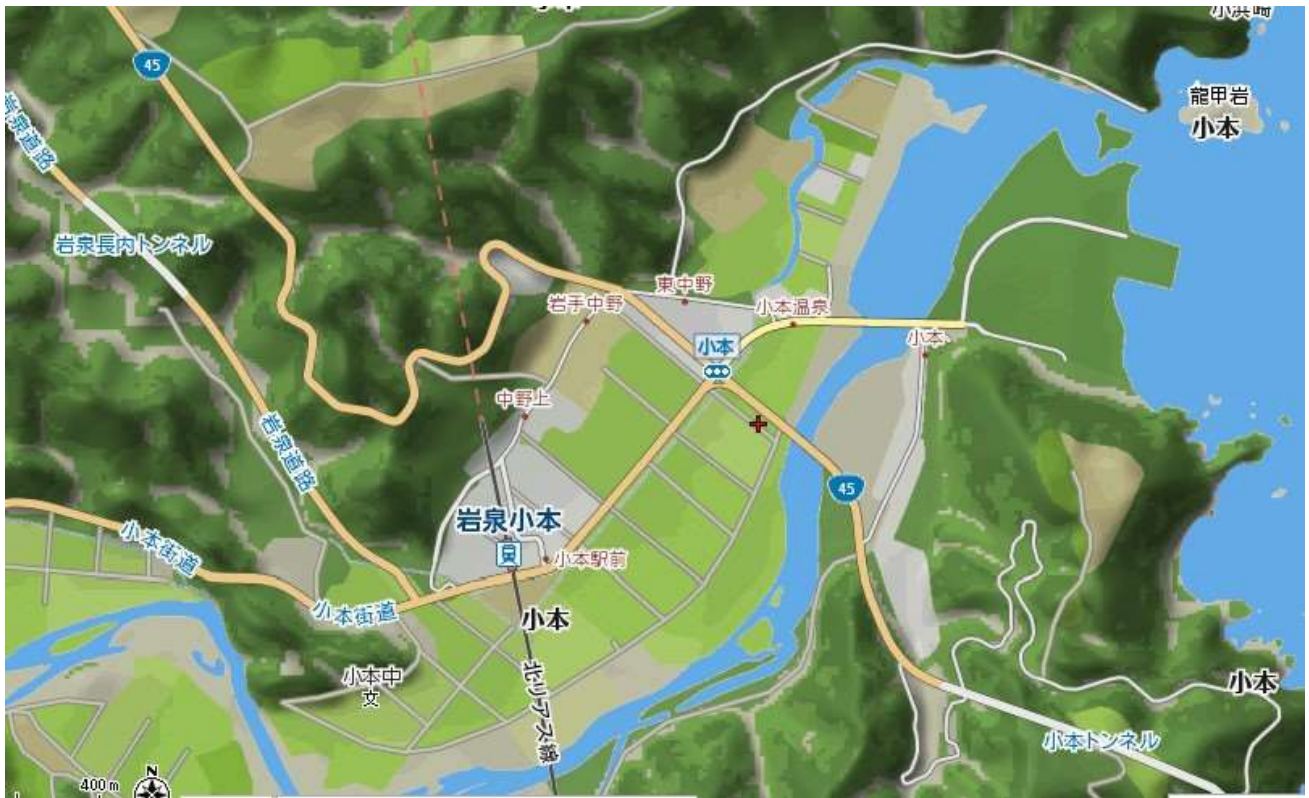
第3時 避難訓練(行事) 前時を生かして、適切に避難できる。

【本時の展開】

<本時の目標>津波の実態、津波の威力を知り、ビデオを通して自分の身を守るにはどうすればよいか考えることを通して、津波のときに生き残るにはどうすればよいか分かる。

段階	学習活動	主な発問(・) 予想される児童の反応(○)	指導上の留意点(・) ※評価
つかむ	<p>1 東日本大震災小本地区の津波被害の様子を写真を通して知り、分かったことや思ったことを話す。</p> <p>2 本時の学習課題を把握する。</p>	<p>・分かったことや思ったことを言いましょう。</p> <p>○びっくりした。</p> <p>○こわい。</p> <p>○あんなに高いところまで津波が来るとは思わなかった。</p>	<p>・写真については、場所や時間経過などを補説しながら見せる。</p> <p>・津波はいつまたやってくるか分からないことを知らせ、課題意識へと繋げる。</p>
	つなみからにげるにはどうすればよいかかんがえよう。		

<p>深める</p>	<p>3 つなみから逃げるには、どうすればよいかビデオを見て考える。</p> <p>(1) 学校にいるとき</p> <p>(2) 外にいるとき</p> <p>(3) 避難した場所では危ないと思った時</p> <p>4 「いきる かかわる そなえる」の読み聞かせを聞き、逃げるとき大事なことを考え発表する。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>・津波から逃げるにはどうすればいいかビデオを見て考えていこう。</p> <p>・学校にいるときは、どうすればいいだろう。</p> <p>○4階に逃げる。高くて津波が来ないから。</p> <p>○あぶないときは、もっと高いところへにげる。</p> <p>・外にいるときは、どうすればいいだろう。</p> <p>○学校に逃げる。高くて頑丈だから。</p> <p>○近くの山に逃げる。高くて津波が来ないから。</p> <p>○津波防災センターに逃げる。高くて頑丈だから。</p> <p>○トンネルの方に逃げる。高くて津波が来ないから。</p> <p>・避難した所が危ないと思ったらどうすればいいだろう。</p> <p>○もっと高いところに逃げる。</p> <p>・津波が来ない高いところのにげたのに、たくさんの人が亡くなってしまったのはどうしてだと思いますか。</p> <p>○もどったからだと思う。</p> <p>・だいじなことをふりかえりましょう。</p> <div data-bbox="359 1361 997 1512" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・たかいところのにげる。</p> <p>・ひなんしたところがあぶないときは、もっとたかいところへにげる。</p> <p>・あんぜんになるまでもどらない。</p> </div>	<p>・津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(気象庁)を見せる。</p> <p>・学校にいるときは、地震が収まってから先生の指示に従い高いところへ避難することを確認する。</p> <p>・どこに逃げるか地図を使って具体的に考えさせ理由を話させることで、今後の実践に生かせるようにする。</p> <p>【評価】 ※津波が起きたときの、安全な行動の仕方を考えているか。</p> <p>・逃げるとき大事なことは何かを考えさせながら、副読本を読み聞かせる。津波は繰り返しやってくるので安全になるまでもどらないことを意識づける。</p>
<p>まとめる</p>	<p>6 今日の学習で大切だと思ったこと、これからこうしたいと思ったことを発表する。</p>	<p>・今日の学習で、大切だと思ったことや津波が来たらこうしたいと思ったことを発表してください。</p> <p>○高いところに逃げるのが大切だと思った。</p> <p>○すぐに高いところに逃げたい。</p> <p>○近くに山がなかったら、高い建物に逃げたい。</p> <p>○津波から逃げたらもどらないようにしたい。</p>	<p>【評価】 ※津波が起きたときの行動の仕方が分かったか。</p> <p>・どれも命を守るために大切なことを確認する。</p> <p>・次の避難訓練では、自分の命を守るために、真剣に取り組むことが大切であることを話す。</p>



板書計画

つなみからにげるには、
どうすればよいかかんがえよう。

○がっこうにいるとき

- ・4かいににげる。

○そとにいるとき

おもとちく

- ・がっこうににげる。
- ・トンネルのほうににげる。

なかのちく

- ・つなみぼうさいせんたあににげる。
- ・やまににげる。
- ・がっこうににげる。

○ひなんしてもあぶないとおもったとき

- ・もっとたかいところへにげる。

○つなみのみずがなくなっても、もどってはいけない。



- ・たかいところへにげる。
(がっこう、つなみぼうさいせんたあ、やま、とんねる)
- ・ひなんしてもあぶないときは、もっとたかいところへにげる。
- ・あんぜんになるまで、もどらない。

(わかったこと・こうしたいとおもったこと)